

2019年6月25日

各 位

会 社 名 カルナバイオサイエンス株式会社
 代表者名 代表取締役社長 吉野 公一郎
 (コード番号：4572)
 問合せ先 取締役経営管理本部長 山本 詠美
 (TEL：078-302-7075)

業績予想の修正に関するお知らせ

当社は、2019年2月8日に公表した2019年12月期通期（2019年1月1日～2019年12月31日）の連結業績予想を、下記の通り修正することといたしましたので、お知らせいたします。

記

1. 業績予想の修正内容

2019年12月期通期業績予想の修正の内容（2019年1月1日～2019年12月31日）

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回公表予想 (A)	1,240	△1,658	△1,671	△1,693	△166.03円
今回修正予想 (B)	3,038	313	279	214	20.12円
増減額 (B-A)	1,798	1,971	1,950	1,908	
増減率 (%)	145.0%	—	—	—	
(参考) 前期(2018年12月期)実績	754	△1,144	△1,159	△1,210	△125.02円

2. 業績予想修正の理由

本日付けで発表いたしました「ギリアド・サイエンシズとのライセンス契約締結に関するお知らせ」に記載のとおり、当社はギリアド・サイエンシズ・インク（米国、英名：Gilead Sciences, Inc.、以下「ギリアド社」という）と、当社が研究開発中の新規がん免疫療法の創薬プログラムの開発・商業化にかかる全世界における独占的な権利を供与する契約を締結しました。その対価として当社は契約一時金20百万ドル（約21億円）を受領することになります。当社は、当期（2019年12月期）において黒字化を達成することを最重要課題と考えており、ギリアド社から受領する契約一時金およびその他の項目を精査のうえ、連結業績計画を以下のとおり修正いたします。

売上高の予想については、創薬事業を440百万円、創薬支援事業を800百万円、連結売上高を1,240百万円と計画しておりましたが、今回、創薬事業を2,100百万円（前回公表予想比1,660百万円増、同377.3%増）、創薬支援事業を938百万円（前回公表予想比138百万円増、同17.3%増）、連結売上高を3,038百万円（前回公表予想比1,798百万円増、同145.0%増）の予想にそれぞれ上方修正いたします。

創薬事業においては、ギリアド社からの契約一時金20百万ドルを売上高予想に含める一方で、当社が開発しシエラ・オンコロジー社（以下、シエラ社）に導出したCDC7阻害剤SRA141（当社化合物番号：AS-141）の臨床試験開始に伴うマイルストーン収入4百万ドルを業績予想に含めないことといたしま

した。シエラ社は、SRA141の臨床試験を2019年中に開始すると発表しており、フェーズ1試験においてSRA141が初めて被験者に投与された時点で、当社は4百万ドルを受領することになります。しかしながら、SRA141の臨床試験は現時点で開始されておらず、マイルストーンの受領時期には不確実性が残ります。当社は当期の黒字化を必ず達成したいと考えており、シエラ社からのマイルストーン収入を除いても黒字化を達成できる業績計画のもとで当期の事業を進めていくことといたしました。

創薬支援事業においては、上記ギリアド社とのライセンス契約に関連し、同社による当該プログラムの開発をサポートするため、当社の脂質キナーゼ阻害剤に関する創薬基盤技術を一定期間、独占的にギリアド社に供与することとなりました。これに関連した売上の増加、現在までの販売状況、および今後の見通しなどを精査し、創薬支援事業の売上計画を修正いたしました。地域別には、北米でギリアド社向けの売上が増加する見込みであることから、同地域の売上計画を300百万円（前年同期比20.1%増）から482百万円（前回公表予想比60.9%増、前年同期比93.3%増）へ修正いたします。また、国内では現在までの販売状況を検討した結果、320百万円（前年同期比10.9%増）から275百万円（前回公表予想値13.8%減、前年同期比4.4%減）に売上計画を修正いたします。欧州、その他地域の売上計画に変更はありません。

営業損益の予想については、創薬事業の営業損失を1,802百万円、創薬支援事業の営業利益を144百万円、連結営業損失を1,658百万円と計画しておりましたが、創薬事業の営業利益を65百万円（前回公表予想比1,867百万円増）、創薬支援事業の営業利益を247百万円（前回公表予想比103百万円増、同71.8%増）、連結営業利益を313百万円（前回公表予想比1,971百万円増）とする予想に上方修正いたします。ギリアド社からの契約一時金による創薬事業の売上増加が主な増益要因となります。また、研究開発費の計画を2,011百万円から1,808百万円に修正いたしますが、これは主に外注費用の精査によるものであり、前臨床試験段階にある2つのBTK阻害剤プログラムを含む創薬パイプラインの研究開発計画に変更はありません。

以上の売上高および営業利益の予想に営業外損益の影響を考慮し、経常利益は279百万円（前回公表予想比1,950百万円増）、親会社株主に帰属する当期純利益は214百万円（前回公表予想比1,908百万円増）となる見込みです。

なお、ギリアド社からの契約一時金は、1ドル105円の為替レートで換算しておりますが、通期業績予想の前提為替レートは従来から変更ありません。

※本資料に記載されている業績予想等の将来に関する記述は、本資料の発表日現在において入手可能な情報及び本資料の発表日現在において合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は今後の様々な要因によって予想数値と異なる可能性があります。

以 上

（注）業績予想の修正に関しましては、本日公表いたしました「中期経営計画の修正に関するお知らせ」もご参照ください。